

岡山醫學會彙報

岡山醫學會通常會

同會は岡山醫大各科集談會と合同し本月十五日午後三時十分より岡山醫科大學附屬醫院南臨牀講義室に於て開會す、田村庶務主幹開會を告げ直ちに左の講演に移る。

第一席 大網乳斑の糖原質に就て

附. 中樞性糖尿は果して「アドレナリン」血症に因る歟。

病理教室 濱崎幸雄君

從來 Reticuloendothelial System が含水炭素物質代謝に密接なる關係を有する事は既に多數學者によりて認められし所なり。然らば組織球性細胞を主成分とす乳斑と該物質代謝との關係如何は興味ある問題なるも今尙ほ一般に等閑に附せられたり。

演者は健康家兎、飢餓動物及種々なる實驗的過血糖症に於ける乳斑の糖原質を研究し大略下の如き結論に達せり。

1. 健康家兎の乳斑に於ては60%に於て糖原質陽性にして糖原質の大部分は組織球性細胞に、一部は乳斑を覆ふ漿液膜細胞に含有せらる。
2. 該糖原質は5日間の飢餓にて完全に消失す。
3. 乳斑は著明なる Polimerisationskraft を有するも、乳斑以外の腹膜は本機能を有せず。
4. 乳斑の Polimerisationskraft は一定の刺戟によりて阻止さるのみならず、豫め含有せし糖原質をも reducirieren す。
5. 乳斑の糖原質は糖刺又は「ザウレチン」注射による中樞性糖尿の際には著明なる増加を來すも「アドレナリン」注射による末梢性糖尿に於ては殆ど全く消失す。此の事實は甚だ興味あるものにして Blum 氏等の唱ふる中樞性糖尿は Adrenalinaemie によるものなりとの説に對する一反證たり得べし。

尙詳細は追つて本誌に發表すべし。(自抄)

第二席 種々なる刺戟に對し各種白血球が如何なる反應を呈するやの 實驗的研究(第一回報告)

病理教室 松波巽太郎君

君の講演は追て本會雜誌原著欄に掲載すべし。

第三席 日本産源氏螢の發光に就て (第一回報告)

林 香 苗 君
生理教室
奥 山 美 佐 雄 君

1. 座標系横軸に時間 t , 縦軸に光の強度の對數値 i をとる時には光の自然消滅經過は直線の方程式にて表はし得, 且異なる温度に於ける直線の傾斜度は各其の温度に特種なるものにして其の傾斜度より數學的に Q_{10} の價を誘導したり.

2. 光の強度は酸素張力の増加と共に急勾配にて増強すれ共酸素張力約一氣壓以上に及べば酸素張力の増加に無關係なり.

3. 螢尾部發光器の冷水「エキス」に螢體部の或は松喰蟲の冷水「エキス」を混合するも發光せざれ共螢尾部發光器の冷水「エキス」に螢體部の或は松喰蟲の温水「エキス」(80°Cにて浸出せる液)を混合すれば著名に發光す. 而して發光物質は一定期間「エーテル」中に保存可能なり.

4. 其他發光器の炭酸瓦斯發生量及び光の「スペクトラム」を測定して光の性質を論じ發光器に對する電氣的刺戟或化學的刺戟の影響を検して發光條件に關する二三の補遺を試みたり.

以上凡ての實驗は「ホトメトリー」を應用して檢したるものにして其の實物寫眞を供覧したり.

右終りて午後五時十分閉會す.